



ケータイHP

2012年(平成24年) 3月4日発行

主な内容



3~6ページを、抜き取ってご使用ください

ごみ収集日程表(4月~9月)
ごみの分け方・出し方

発行/名張市企画財政部広報対話室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1 ☎0595-63-7402 ✉pr@city.nabari.mie.jp 🌐http://www.city.nabari.lg.jp

子どもたちを
理解し、支援
するために—

発達障害を知ろう。

発達障害が原因で、落ち着きがなかったり、友達とのトラブルが絶えなかったりする子どもたちがいます。市では、昨年、関西医科大学・金子一成教授の協力を得て「小児発達支援外来」を市立病院に開設するなど、発達障害がある子どもたちへの専門的・総合的な支援を進めています。

求められるのは、発達障害の早期発見・支援、そして、周囲の理解ある対応です。2月5日には、武道交流館いきいきで関西医科大学市民公開講座「発達障害を知り、子どもたちを理解する」が開催され、300人が聴講しました。今号では、その講演内容をご紹介します。

☎ 子ども発達支援室 ☎ 62-1088

発達障害には、多様なケースがあります

※下記は一例です



言葉の発達の遅れ、コミュニケーションの障害、パターン化した行動・こだわりなどの特徴をもつ自閉症。大きな音や光などが苦手な人もいます。



集中できない、じっとしてられない、衝動的に行動するなどの特徴をもつ注意欠陥多動性障害(ADHD)。



全般的な知的発達に遅れはないのに、聞く、話す、読む、書く、計算するなどの特定の能力を学んだり、行ったりすることが困難な学習障害(LD)



発達障害の特性を理解し、子どもの自尊感情を高めることで、非行や引きこもりといった二次障害を予防することができます。

関西医科大学 小児発達支援講座 准教授 石崎 優子さん

国の調査によると、学習、行動面で特別な支援を必要とする児童・生徒の割合は約6.3%。30人学級で1~2人は該当するという事です。ただ、発達障害は見た目では分かりにくいので、その特性が周囲に理解されにくいんですね。また、こだわりが強かったり、動き回ったりといった子どもの行動が個性なのか障害なのかの境目はあいまいなのですが、子どもが実際に困っている、また生活に支障があるのならば、専門医の受診などを検討する必要があります。

発達障害の診療とは、療育などにより、自立と社会参加、そして、二次障害の予防を目指すところにあります。「療育」とは、「注意深く特別に設定された特殊な子育て」と言われ、

いわゆる治療ではありません。そして、早期に発達障害を発見し、支援につなげていくことが大切です。例えば、発達障害に起因する行動によって、子どもが周囲から「お前はダメな人間」と決めつけられることで、「どうせボクは…」と自尊感情を低下させることが繰り返されてしまうと、非行や引きこもりといった二次障害に結びついてしまうのです。

こうした二次障害の予防に最も重要なことは、子どもの自尊感情を高めること。そのために、まずは、周囲が子どもの特性を理解し、適切に対応することが必要であり、こうした環境を整えていくことが、子どもがその特性を生かしながら社会参加を果たしていくことにつながっていくのです。

小児発達支援外来の開設から約1年一。保育所(園)や幼稚園、学校などと連携を図りながら、早期発見・支援につなげています。

関西医科大学 小児発達支援講座 名張市立病院 小児発達支援外来 担当医 小林 穂高さん

市立病院の小児発達支援外来には、昨年4月から今年1月末までに、のべ182人が受診。就学前の受診が多いのですが、思春期になってから受診する人もいます。

就学前の主な相談内容は、「言葉の発達の遅れ」「マイペース」など。小中学校では、学習の遅れや授業中の立ち歩き、クラスメートとのトラブル、暴言、暴力など「学校生活での困難さ」となっています。就学までに発達障害の特性が周囲に理解されていないと、思春期に心身の不調や不登校につながる事が多くなると考えられるため、早めの相談が必要です。

診察のほかにも、子ども発達支援室のスタッフとともに、市内の保育所(園)、幼稚園、小中学校での巡回相談や福祉

施設などへの訪問なども実施。発達障害の早期発見・支援につなげています。また、同室スタッフは、診察にも同席したり、保育所(園)、幼稚園、小中学校での子どもたちの様子を確認したりと機動力があり、医療・教育・福祉の各関連機関の連携や、子どもの顔がみえる支援体制づくりには欠かせない存在となっています。

今後は、病院の受診につながらないけれど、実際に困っている子どもたちに対してどのようにかかわれるのか、また、増加している外来受診者にどう対応していくかが課題です。また、名張市で検討が進められている「5歳児健診」で、発達障害を見逃さない体制づくりにも取り組んでいます。



子どもの
発達相談

「子どもの発達に心配なところがある」「どういった病院にかかればいいのか」といった発達障害に関する心配やお悩みに、子ども発達支援室の保健師や保育士などが相談に応じています。※面談は要予約 ☎62-1088 FAX62-1089 平日午前8時30分~午後5時15分